

## 経絡の流れをもとに 治療した湿疹の一例

A case of Eczema treatment based JINGLUO flow

龍神 綾子

Ayako RYUJIN

りゅうじん医院, 静岡, 〒 411-0943 駿東郡長泉町下土狩 520

RYUJIN CLINIC, 520 shimotogari, nagaizumi-cho, suntou-gun, shizuoka, 411-0943, Japan

### 要旨

**【緒言】** 経絡は気血の通り道と言われているが、実際は気血の流れを誘導するシステムであろう。『素問』皮部論にもとづき、湿疹がある部位の経絡弁証をし、治療することが可能である。一例を報告する。

**【方法】** 心熱から胆経に生じた湿疹が他の皮部にも広がった一例において、経絡弁証を行い、加療した。

症例：8歳・男児・ADHD（注意欠如・多動性障害）

既往歴：幼児期より口腔粘膜アレルギーがあり、特異的 IgE で卵黄・卵白ともに陽性。牛乳・大豆・小麦は陰性。

現病歴：夏の ADHD のキャンプから帰宅後、右下腿外側に湿疹ができた。翌年1月より湿疹の増悪があり、他院でのステロイド外用剤で改善せず、6月に当院を受診。

現症：皮疹は、陽明・少陽・太陽の皮部に存在し、掻痒が強い。舌所見は心熱胃寒。ときどき頭痛あり。二便は正常。

診断：心経鬱熱・痰湿困脾・気機鬱滞

**【結果】** 梔子柏皮湯 1.5 g, 防己黄耆湯 2.5 g を 35 日間内服した。内服 10 日後には痒みが治まり経過良好であったが、35 日後に右下腿外側部の痒みが再燃したため、柴胡清肝湯 2.5 g と黄耆建中湯 3 g に変更し、14 日間内服後に治癒した。

**【考察】** ADHD は心の病気と考えられる。心にこもった熱が肝熱を生じて胆経に湿疹を作り、木克土により胃の冷えから湿疹を生じた。陽明胃経は大鎖骨上窩で少陽胆経と、清明穴で太陽膀胱経とつながる。太陽の手足と少陽の手足はひとつながりであり、熱が伝搬した。清心熱・補肺・補脾により治癒した。

キーワード：経絡弁証, 湿疹, 治療

## Abstract

[Introduction] JINGULUO has been understood a path of Qi and Blood. But I think that is a system to induce of Qi and Blood. I want to say we able to treat Eczema using Meridian apologetics described The skin part theory of SOMON. I would report an example.

[Method] I treated the boy, had eczema caused by Heart heat stroke and that is spreading to three meridian area.

Patient is an eight year old boy has ADHD and oral mucosa allergy. Blood-Test shows egg is positive but milk, soy bean, wheal flow are negative in A specific immune globulin.

He participated Camp of ADHD last Sumer. After returning home a small Eczema appeared on his right leg rerated the gall bladder meridian of foot-shaoyand. The following year in January, the eczema became worse, he visit other clinic and treated with steroid external preparation, but it did not improve. So he visit my office in June.

He had eczema on yangming, shaoyang, taiyand meridian. He had severe Itching.

Findings of the tongue were heat of the heart meridian and cold the stomach meridian. I diagnosed Heart heat stroke, Phlegm Spleen, Qi stagnation.

[Result] He took Shishihakuhito 1.5 g /day, Boiogito 2.5 g /day for 35days. 10days after, his itching was disappear. 35days after an itching rekindled at his right lower leg. So he took Saikoseikanto 2.5 g/day and Ogikenchuto for two weeks. Then disease was cured.

[Consideration] I think that ADHD is a disease of Heart. Heart heat stroke caused liver meridian heat. The heat spread along some meridian through the place that reads to each other. In the result eczema cured to extinguish Heart heat and to supply Lung and Spleen using Meridian apologetics.

**Key words** : Meridian, Apologetics, Eczema, Treatment

## ■ 諸言

経絡は気血の通り道と言われているが、実際は気血の流れを誘導するシステムであろう。このシステムの停滞により疾病が生ずると考えている。湿疹に限ると、その部位に熱と湿が滞っている。病因・病機はさまざまであるが、現象としては湿熱である。

『素問』皮部論には、経脈は臟腑とつながり、臟腑の状態が皮膚に反映すると記載されている。そして、皮膚面における十二経脈の流れを、同名の手と足を一連の経脈として6面に区分し、おのおのの領域に名称を付けている。伝統医学ではこの区画を六経皮部と呼ぶ。このため、皮膚の領域から関連する臟腑を考えて湿疹の治療をすることが可能である。一般に経脈の走行が屈曲している場所に限局性の皮疹をみることが多い。

『傷寒論』では、六経分類としてそれぞれの病態が書かれているが、これは外寒病が進展していく過程とそのときの症候をまとめたものであり、六経皮部と直接の関係はない。経絡を考えた湿疹の治療では、あくまでも経絡の流れに沿った

皮膚の部位と臓腑の関係に注目したい。

生薬の帰経とは、その経絡に薬物が入ることではなく、その気味が臓腑に作用して薬効を表すことであると考えている。皮膚から臓腑が確定すれば、その臓腑に帰経する生薬を含む方剤を選択して、加療している。今回、心熱により胆経の皮部に生じた湿疹が陽明・少陽・太陽の皮部に伝搬した、と考えられた症例を経験したので報告する。

## ■ 症例

8歳・男児・ADHD（注意欠如・多動性障害）

## ■ 既往歴

幼児期より食物アレルギーがある。卵を摂取すると口囲に掻痒感、エビで悪心が生じる。精査のため、小学校の就学前に小児科で血液検査を施行した。総IgEは236 IU/mLで、特異的IgEは以下のとおりだった。卵白25.6 IU/mL（4）、卵黄3.78 IU/mL（3）、オボムコイド15.7 IU/mL（3）。牛乳・小麦・大豆は陰性だった。小学校は給食だが、除去食の制度がないため、卵そのものは食わず、混ぜてあるものは痒くなったら中止しているという。アトピー疾患の既往はなかった。

## ■ 現病歴

前年夏にADHDのキャンプに参加し、帰宅後に左下腿外側に小さい範囲の湿疹を生じた。翌年1月より下肢に湿疹が広がり、4月に皮膚科を受診して乾燥肌といわれた。ステロイド外用剤を塗付して皮疹は消失した。

しかし、すぐに再燃して他の部分にも広がったので外用を中止し、さらに増悪したため当院を6月に受診した。

## ■ 現症

前胸部中央（図1）、下腿中央（図2・3）、上背部（図4）、腰部（図5）、側胸部（図6・7）、下腿外側（図8・9）に湿疹局面を認める。掻きむしりによる滲出液も認めた。これらの部位は、陽明・太陽・少陽の、手足の経絡の領域と考えられた。すなわち、胸と下腿全面は陽明、上背部と腰部は太陽、上背部・躯幹の両外側・下腿外側は少陽である。舌の形状は正、尖紅で点刺があった。中央は白膩苔が覆っている（図10）。舌を長く出せている。

## ■ 問診所見

特記すべきことはないが、ときどき頭痛がある。二便は正常。食事の内容では毎朝納豆を食べ、味噌汁は豆腐と油揚げを具とすることが多く、目立って大豆製品が多かった。そのため大豆の除去を勧めた。

## ■ 診断

心経鬱熱・痰湿困脾・気機鬱滞

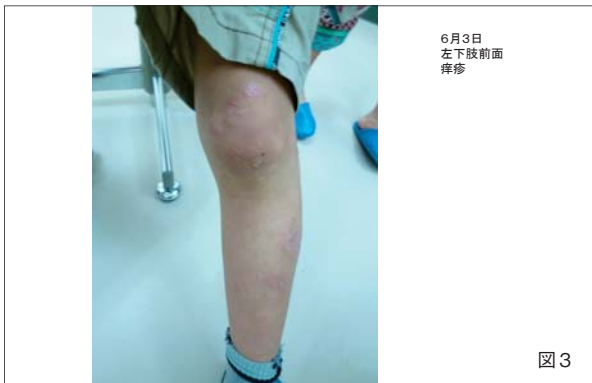
## ■ 治療

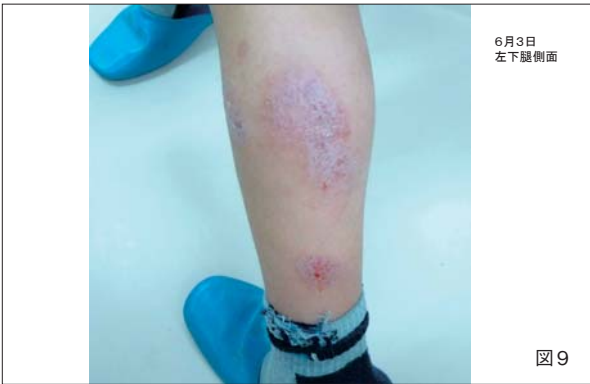
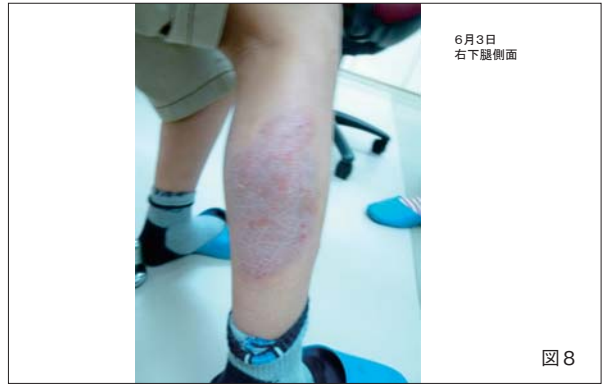
心熱を清すために梔子柏皮湯1.5g、補脾と肺を利湿するために防己黄耆湯2.5g

# 症例報告

を投与した。外用剤は抗ヒスタミン薬のものとした。初診から1週間は、細菌感染を考慮し、セフジニル細粒 2.5g も併用した。内服 10 日後に痒みが治まった。皮疹の軽快とともに舌所見も改善した。

その後の経過は良好であったが、35 日後に、右下腿外側部の痒みが再燃したので、肝熱を考え、脾虚と合わせて柴胡清肝湯 2.5g と黄耆建中湯 3g に変更した。2 週間分の内服後、皮疹のあった部分に浅い瘢痕を残して治癒していた (図 11・12・13)。舌所見では再度白苔がみられ、柴胡清肝湯で胃を冷やしたと考え、廃薬とした。





## ■ 考察

ADHDは発達障害の範疇に分類され、脳に入った刺激に対する反応が一般と違うため社会生活に支障を来すものと理解できる。すなわち心の混乱であろう。したがって、心気が鬱滞して熱をもつ可能性がある。ときどきの頭痛は気の鬱滞を裏づける。特に夏は心火が旺盛な季節である。夏のキャンプから帰宅後、右胆経に湿疹を生じた。初診時に舌先の赤みと点刺から心熱があると診断した。これまで湿疹がなかったことから、キャンプで心に鬱熱を生じたことが原因と考えた。

これを五臓の母子関係で考えると、心の熱が肝に移り、表裏関係の胆熱を生じたと解釈できる。経絡は全身をくまなくめぐり、生じた熱はどこにでも伝搬する。胆経は少陽であり、手三焦に熱が伝搬した。舌の白苔から胃寒による湿を生じたと推測した。胃が冷えると肺経が滞って熱を生じ、湿と合わさって陽明の皮部に湿疹を生じさせた。陽明胃経は清明穴で太陽膀胱経とつながる。さらに大鎖骨上窩では少陽胆経とつながっている。このように、少陽・陽明・太陽に熱が伝搬して湿疹の範囲が広がったと考えた。痒みは熱で生じる。原因と考えた心熱を去ることによって10日で治まった。胆経に熱が再燃したため、肝熱を去る治療と、脾と肺の本治により治癒した。

1年以上経過したが、皮疹の再燃はない。